

トップリダーセミナー 大学ガバナンスとリーダーシップ

■講師



大場 淳(広島大学 高等教育研究開発センター 副センター長 准教授)

大学院教育学研究科高等教育学専攻で高等教育組織・職員論を担当する他、大学ガバナンスを始めとして外国の高等教育に関する比較研究等に取り組んでいる。所属学会は、日本高等教育学会、大学行政管理学会、日本教育学会、日仏教育学会、フランス教育学会、Réseau d'Étude sur l'Enseignement Supérieur(フランス高等教育研究会)。関連する最近の著作に、「学校教育法・国立大学法人法の改正と国立大学のガバナンス」(大学評価研究第14号、2015年)、「Japon : réforme de la gouvernance universitaire = 日本 : 大学ガバナンスの改革」(Revue internationale d'éducation No.70、2015年)、『International Trends in University Governance: Autonomy, self-government and the distribution of authority=大学ガバナンスの国際的動向: 自律性、自治、権限配分』(共著、Routledge、2014年)、『組織としての大学: 役割や機能をどうみるか』(共著、岩波書店、2013年)がある。

■プログラム概要

近年、大学のガバナンス改革が世界的に進められています。日本においても重要な政策課題として取組み、平成26年には関連する法律の改正が行われて翌年に施行されました。当該改正は執行部権限の拡大等を図ったものですが、これは従前から進められてきた大学内の意思決定に関する権限集中や学長リーダーシップの強化と軌を一にするものです。政策は一貫したものですが、十分に効果を挙げてきたとは言い難く、その背景には政策形成段階における議論において必ずしも先行研究が十分に踏まえていないことが指摘されています。本講義では、これまでのガバナンス改革を俯瞰し、日本の制度が国際的に見てどのような位置付けにあるのかを確認します。そして、関連する先行研究を参照しつつ、日本の大学ガバナンス改革の在り方やリーダーシップについての政策の問題点を掘り下げることとしています。

■主な受講対象

大学の管理運営や大学自治の在り方、これまでの関連する大学改革、大学と政府との関係、外国の大学の在り方などに関心のある方はどなたでも歓迎します。

■本プログラムの到達目標

大学ガバナンスやリーダーシップに関する先行研究を理解し、現在の制度や大学運営の在り方について批判的に検討できる。

■日時・会場

日時:平成28年8月25日(木)13:00～15:00

会場:愛媛大学城北キャンパス